

逗子市議会議員

さぎさか ゆうじ 活動レポート vol. 23

～無所属で活動中～



■さぎさか ゆうじ(匂坂祐二) プロフィール■

1970年2月14日生まれ A型 46歳 逗子市沼間1-8-2

沼間小学校卒業・逗子中学校卒業・私立横浜商工高等学校卒業(有) 匂坂畳店入社
 逗子市商工会青年部部長・逗子葉山青年会議所理事長・逗子葉山建設組合青年部長
 沼間小PTA会長・逗子市PTA連絡協議会会長・神奈川県PTA協議会常任理事
 家族構成: 妻と長女(高校3年) 次女(小6年) 長男(小学4年)

現在2期目 議会報編集委員長、基地対策特別委員長、総務常任委員長、予算・
 決算特別委員長 現在、議会運営委員会委員長 所属党派 市政クラブ

28年度第3回定例会 (決算議会) 報告

第3回定例会が9月6日～10月3日に行われました

今回の定例会では、27年度一般会計、4特別会計歳入歳出決算の認定の議案が上程され、可決(認定)されました。その他の主な議案は、工事請負契約の締結について(可決)、逗子市こども発達支援センター条例の制定について(可決)、逗子市事務分掌条例の全部改正について(可決)、逗子市手数料条例の一部改正について(可決)、逗子市介護保険条例の一部改正について(可決)、逗子市指定地域密着型サービスに関する基準を定める条例等の一部改正について(可決)、動産の取得(高規格救急自動車購入)について(可決)、逗子市総合的病院選考委員会条例の制定について(可決)、平成28年度の一般会計補正予算(可決)及び下水道事業特別会計補正予算について(可決)、教育委員会委員の任命について(可決)その他、意見書案、決議案、陳情が審議されました。

[依然厳しい財政状況]

健全な財政運営の原則である収支の均衡及び財政構造の弾力性についての比率の推移

財 務 比 率 の 推 移

	実質収支比率	経常収支比率	公債費比率	財政力指数
平成27年度	8.9%	96.4%	7.5%	0.864
平成26年度	7.8%	98.1%	7.2%	0.857
平成25年度	7.5%	97.4%	8.7%	0.851

実質収支比率：標準財政規模に対する割合。一般的には3～5%が望ましいとされている。

経常収支比率：経常一般財源に対する経常的経費の割合。

一般的には70～80%が望ましいとされている。

公債費比率：経常一般財源に占める公債費の一般財源所要額の比率。

一般的には10%以内が望ましいとされている。

財政力指数：財政上の能力を示す指数。この指数が1を超えるほど財源に余裕がある。

※経常収支比率は、前年度と比較して1.7ポイント下回ってはいるが依然と高い水準にあることから、これからも事務事業の見直しや行財政改革のより一層の推進、経費の節減と効率的な財政運営に努めなければなりません。

総合的病院誘致の可能性（公募による選考を実施）

総合的病院誘致については、平成21年7月に聖テレジア会が沼間3丁目市有地への聖ヨゼフ病院開設計画を断念しました。その後は、これまで特段の進展がありませんでしたが、今回、横須賀共済病院分院の閉院などにより、175のベッド数の不足が公表され、今後、神奈川県が開院やベッド数を増やしたい病院を募集し、割り当てることになりました。市は、これを機に総合的病院誘致に向けて検討を開始しました。総合的病院は、高齢化が進む本市にとっては、市民の皆様安心して暮らしていただくために必要であり、多くの市民から要望も寄せられています。また、沼間3丁目市有地に病院ができることにより、東逗子地区の活性化にも大きく寄与するものと考えます。今後の流れについては、10月に公募を実施して、選考委員会で審査したうえで、最も安定して運営できる法人を12月上旬までに決定します。その後、病院が県に申請手続きを行います。



機構改革 こどもセクション創設へ 小・中学校に防災ヘルメット配備を要望

市は、来年4月よりこどもセクションの教育委員会への設置、新たな行政ニーズへの対応、組織のスリム化による効果的な行政運営を行うこと等を目的として、行政組織を改革します。子育て支援課、保育課、児童青少年課を教育委員会へ設置し、0歳から18歳までの子育て・教育の一貫した支援体制の構築を目指している。新潟県三条市と見附市を視察し、両市とも「メリットが大きく、成果を上げている」とのことだが、全国的には事例も少ないようです。移行期には、教育委員会を部長2人体制にして組織を強化する考え。子どもセクションと福祉部の連携体制の構築が大きな課題となります。逗子の子どもたちのために、教育委員会と福祉部との更なる協議の場を求めています。

現在、市内公立小学校で、地震や火災等の災害発生時において避難を要する場合に、落下物等の危険や火災による煙や炎から児童の頭部を保護するために、全児童が防災頭巾を学用品の1つとして教室に備えていますが、学校現場で避難の必要性がある火災は殆ど起きない事、現実には学校等で災害に遭い、避難が必要になった際は、震災、落下、転倒への対策を考えると、ヘルメットの方が安全だと考えます。市内小学校のPTAからも防災ヘルメット導入の要望がでています。この地域でも、地震が起きる可能性が高まっています。全児童・生徒の安全を守るために、小・中学校への防災ヘルメットの配備を要望しました。

皆様の声を聞かせて下さい。
市政に対するご意見、ご要望をお待ちしています。

	御名前
	御住所
	連絡先

送り先FAX 046-871-3552 TEL 046-871-3526 e-mail: sagisaka@plum.ocn.ne.jp

発行責任者: 匂坂祐二(さぎさかゆうじ) ポスティング ボランティアを募集しています。御協力お願い致します。